

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

トリプルブルー期待がドル円を支える (P2)

カスタマーディーラー 武富龍太

ドル円予想レンジ **105.20 ~ 106.20**

りそなWEEKLY COLUMN

クリスマスプレゼントはもらえるか！？ (P3)

りそなホールディングス 市場企画部
エコノミスト 丸井 都希

- 米国の追加経済対策の協議は難航
- 貯蓄額が大幅に増加
- 個人消費支出の見通し

2020/10/12

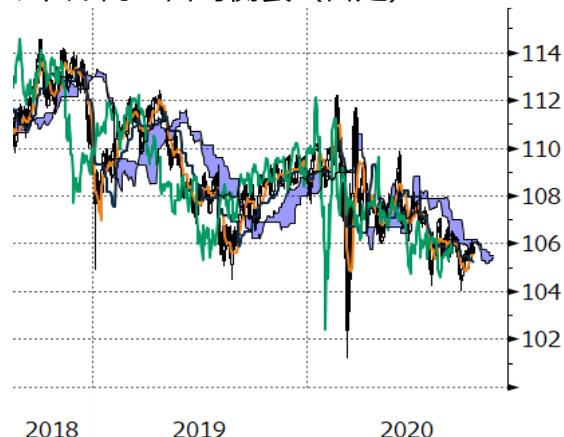
りそな外為レポート

トリプルブルー期待がドル円を支える

ドル円予想レンジ 105.20 ~ 106.20

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

トランプ大統領が新型コロナウイルスへの感染を公表後、ドル円は一時的に104円台に下落したが、その動きは長続きせず反転すると、先週は106円台を回復するなど円安が進んだ。

背景は、大統領選・議会選で全て民主党が勝つという「トリプルブルー」への期待が高まっていることにある。バイデン候補のリードが広がることで、選挙結果判明の遅れへの懸念が低下するとともに、議会のねじれ解消により大規模な財政政策が実行されるとの期待がドル円上昇要因になっている。

今週もドル円相場は大統領選に向けた支持率動向に左右されそう。トランプ大統領の感染を受けて、15日に予定されていた米大統領候補者討論会は中止が決定。トランプ大統領は巻き返しの機会が減ることになり、トリプルブルー期待は継続し易いだろう。引き続きドル円相場は上昇を予想する。

(カスタマーディーラー 武富龍太)

◆今週の日程

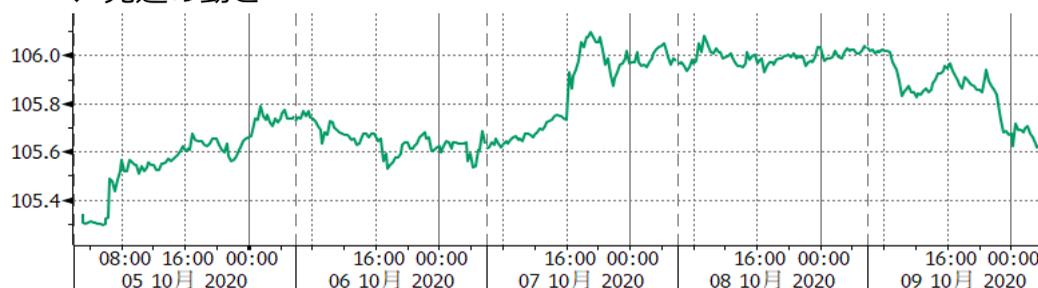
12日(月)日 8月機械受注
12日(月)米 コンプス・デー(米外国為替債券市場の休場)
12日(月)中 9月貿易統計
13日(火)米 9月CPI
15日(木)米 10月フィラデルフィア連銀製造業指数

15日(木)米 大統領候補第2回テレビ討論会(中止濃厚)
15日(木)欧 首脳会議(ブリュッセル ~16日)
16日(金)米 9月小売売上高
16日(金)米 9月鉱工業生産
16日(金)米 10月ミシガン大消費者信頼感指数

◆今週の予想 (ドル高 強い↑ 普通↑ ドル安 強い↓ 普通↓) NY引け値 10月9 (金) 105.62円 VS 10月16日 (金)

東京								大阪					埼玉				
井口	中根	石川	湊	小新	鳥井	田中	中里	伊藤	村永	小林	鈴木	武富	上野	小林	津田	石井	佐藤
↓	↓	↓	↑	↑	↑	↓	↑	↑	休	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↓	↑

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

りそな WEEKLY COLUMN

クリスマスプレゼントはもらえるか!?

- 米国の追加経済対策の協議は難航
- 貯蓄額が大幅に増加
- 個人消費支出の見通し

りそなホールディングス 市場企画部
エコノミスト 丸井 都希

コロナの追加経済対策の協議が難航

米国では3月に成立したコロナウイルス対策の一環で、失業した場合の給付金が通常時よりも大幅に増額された。失業給付の増額の期限は当初7月末であったが、トランプ大統領が大統領令を用いて一時的に延長した。しかし、その財源もすでに枯渇しているとみられ、現在失業者は通常の失業給付しかもらえていないことになる。米国議会では追加の経済対策について議論が進められているが、規模などで折り合いがつかず協議は難航している。クリスマスに向けて、例年では個人の購買意欲が活況になる時期に入るが、今後の見通しについて概観する。

厳しい行動制限により失業者は大幅に増加

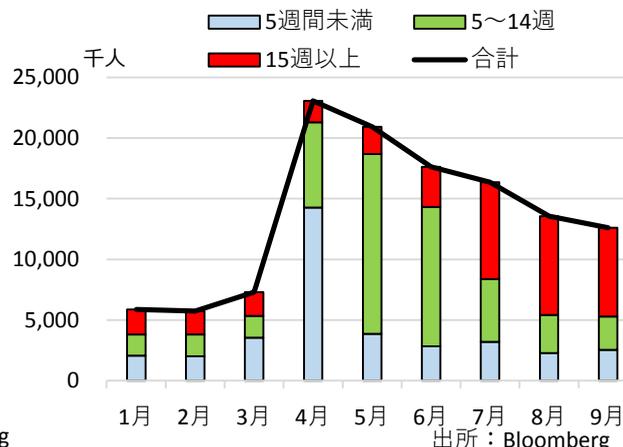
米国では3月以降コロナウイルスの感染が大幅に拡大(図1)したことで、感染拡大を抑制するため、政府や州が緊急時以外の外出を制限したり、テレワークの推進、飲食店などの営業停止など厳しい行動制限が各地で行われた。この結果、企業は余剰人材のレイオフ(一時帰休や一時解雇とも呼ばれ、その間給与は発生しない)を行ったため、失業者が大幅に増加した(図2)。



図1 米国コロナ感染者数(日次)



図2 失業者数推移



失業者の所得は爆増?

厳しい行動制限によって失業者が増加したことから、政府は期限付きで失業者への給付を大幅に増額、通常は全国平均で週に370ドル程度であるが、そこに600ドルを上乗せする大盤振る舞いの政策を断行した。パンデミックという緊急事態であり、同政策を批判するつもりはないが、上乗せ後の失業給付を年換算すると5万ドルを超え、米国の平均年収とさほど変わらない水準であるのは驚きである。

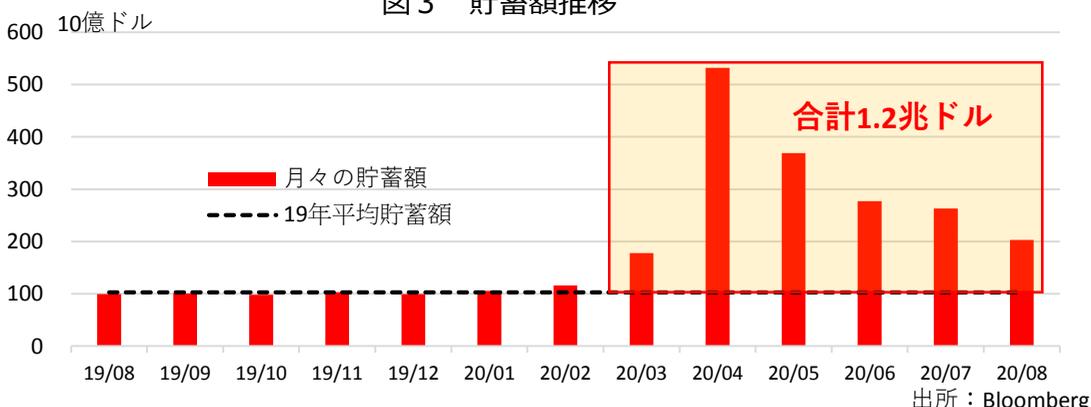
りそな WEEKLY COLUMN

貯金額が大幅に増加



月々の可処分所得と消費支出についてしてみると、可処分所得については4月以降、政府の手厚い政策によりコロナショック前よりも増加したが、消費は行動制限などでお金の使い道が限られ大幅に減少した。結果、可処分所得－消費支出で求められる貯蓄額は19年平均を大幅に超過することとなった(図3)。FRB(米国の中央銀行)のパウエル議長も失業給付が上乘せされている間は、失業者でさえも貯金を行うことができたと指摘している。19年の平均の貯蓄額から上振れした貯蓄額の3月から8月までの合計を算出すると、なんと1.2兆ドルにもなる。金額が大き過ぎて想像し難いが、この金額は米国の消費支出の約1か月分となる。

図3 貯蓄額推移

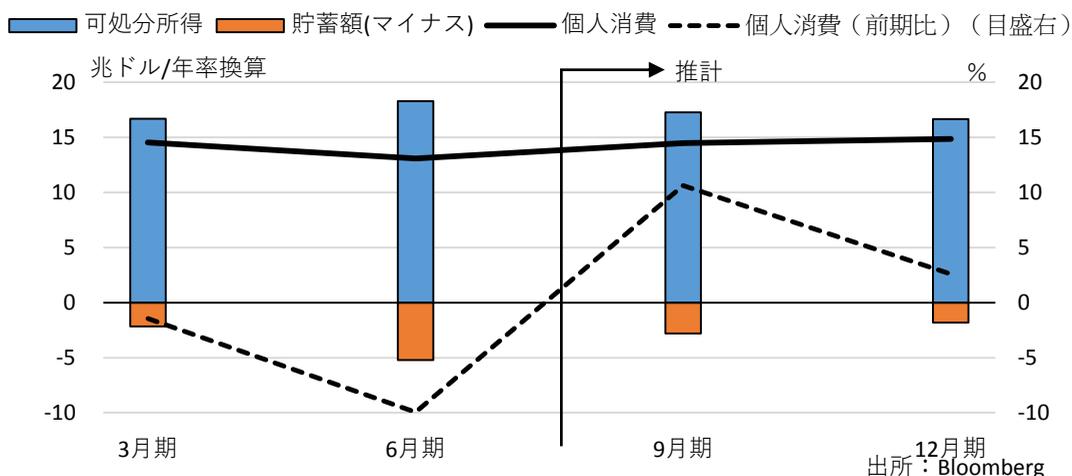


年末までの消費の見通しを予想



前述した通り、米国の追加経済対策については大統領選を控えていることもあり、協議が難航している。協議が合意に至らなかった場合、失業給付はコロナショック以降と比べ大幅に削減されることから、可処分所得も減少することが見込まれる。仮定(後述)において消費支出について予想すると、10-12月期の消費支出は7-9月期から前期比+2.6%(前年比+0.7%)であった(図4)。挽回消費により大幅に回復した7-9月期から、さらに消費額が増加するという結果となった。

図4 個人消費支出の見通し



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/10/12

りそな WEEKLY COLUMN

年末商戦の行方

前述の仮定を前提とすると、米国のGDPの約7割を占める個人消費が大幅に回復を遂げることになり、年末商戦は成功をおさめるであろう。年末商戦は、クリスマス商戦やホリデーシーズンなどとも呼ばれるが、時期としては10月中旬ごろから年末までの小売業者の書き入れ時を示す。特に11月の第4木曜日（今年は11月26日）の感謝祭やその翌日のブラックフライデーは実店舗を中心とした小売店が例年安売りし混雑することから有名である。また、その翌週の月曜日はネット販売が活況となりサイバーマンデーと呼ばれる。日本でもここ最近、耳にする機会が増えたのではないだろうか。今年については、コロナウイルスの感染拡大などが実店舗の販売に影響を及ぼす可能性があるが、オンラインショップ販売は前年以上に堅調に推移すると思われる。

終わりに



私は子供が2人いるが、トイストーリーの映画が公開されたことなどをきっかけに、子供たちはトイストーリーに夢中だ。10月末のハロウィンには兄弟でバズとレックス（緑色の恐竜）の仮装をすることはしゃいでいた。おそらくクリスマスプレゼントもトイストーリー関連になりそうである。たとえ、コロナウイルスで経済や労働環境が悪化していたとしても、全世界の子供たちがクリスマスプレゼントをもらい、楽しいクリスマスを過ごせることを切に願っている。

番外編 (P2の仮定の条件)

P2の個人消費支出の見通しについては、やや極端であるが、以下のような仮定をおいた算出。

- ・可処分所得：7月時点で可処分所得の約7%を占める（8月は約3%）失業給付をゼロとし、その他の所得は20年8月の水準を維持。
- ・貯蓄額：月々の貯蓄額はコロナショック以降、19年平均の水準を大幅に上回っていた（図3参照）が、手元の貯金が積みあがっていることから、9月以降は19年平均と同水準まで減少。
- ・消費支出：可処分所得－貯蓄額
- ・公式統計は、8月分までの公表となっているため、9月以降は仮定の数値。月次の名目季節調整値を合計し、四半期の数値を算出。